

## みやぎ観光振興会議栗原圏域会議

【日時】令和7年9月29日（月）午後2時から午後4時まで

【場所】栗原合同庁舎 第二会議室

### 【委員からの主な意見】

#### 1. 宿泊税活用施策案について

##### （1）施策1 戰略的な観光地域づくり

- ・モニターツアーはここ20年くらい、色々なものを繰り返し実施している。実施後の検証をしつかりやるべき。モニターツアーのためのモニターツアーになっている。また、民間で既にツアーバー化しているものをモニターツアーとして扱うことのないようにしていただきたい。バスツアーバーだけが商品化ではないので、バスツアーバーに特化する考え方を辞めてほしい。
- ・二次交通対策や観光コンテンツについて、それを取りまとめる栗原の中心的な団体が必要であり、そのための経費助成をしていただきたいと思う。
- ・くりこま夜市を恒常化していくことを考えており、そのために必要なハード整備や情報発信、市の公共交通機関の臨時運行などに使える事業予算があるとよい。
- ・施策について事業主体が誰になるか、どうやって進めていくかが課題であり、舵取り役の体制整備をどうしたらよいかなど、この圏域会議が中心に議論を担っていくとよいのではないか。
- ・実証実験の結果は一年では出ないため、例えば三年などある程度の期間を設けて行う必要がある。二次交通対策やイベント、長期滞在のコンテンツなど、実証は大切であり、複数年で取り組んでほしい。

##### （2）施策2 周遊性向上のための二次交通対策

- ・定期観光バスの実証実験の取組などの公益性が高いものは、民間だけでやるにはリスクが高い。短期で良いので、そういうもののへのチャレンジに財源を活用してほしい。

##### （3）施策3 快適な旅行環境のための受入環境整備

- ・観光ガイド機能強化については、ガイド技術の向上よりも、リスクマネジメントや応急手当、環境への配慮などの知識を学ぶ施策が必要。
- ・規制緩和で体験の際にガイドが参加者を車に乗せて移動できるようになった。大きな車両があると効果的に運用できるが、自前で保有するのにハードルが高い。そういうたびビジネスモデルに対しての何らかの支援を作ってほしい。
- ・人材確保について、民間がそれぞれやるのではなく、タイマーなどの民間の求人サービスと宮城県域全体が連携した仕組みが確立できないか。派遣してもらうことができるとありがたい。
- ・宿泊事業者として、各自で予約サイトを立ち上げたり OTA を活用するのに難しさを感じる。イタリアには、町中に点在する小さな宿泊場所に対し、フロントが一か所にあり、集中的に宿泊について手配する方式がある。こうしたフロント業務を既存の旅館に手続きしてもらう仕組みの提携と、その仕組みに対する助成があるとありがたい。

#### (4) 施策4 効果的なプロモーションの展開

- ・栗原市そのものを知らないお客様が、旅行商品を見た時に行ってみたいと思ってもらうためには、栗原市をもっと発信して、見所などをPRしていく必要がある。

### 2. 圈域での施策活用イメージ

#### (1) 施策1 戦略的な観光地域づくり

- ・長屋門やトレイル、伝統工芸などの活用されていない資源の活用に取り組んでいるが、民間だけでその活用に取り組んでいく費用を捻出するのに苦労している。そういう取組に対する支援や施策があるとありがたい。
- ・コンテンツ（地域資源）とプロダクト（商品）は分けて考えていくべき。資料ではコンテンツとプロダクトの違いが曖昧に感じる。
- ・JRで、7月から特急イブニングウェイを、仙台-小牛田間と、仙台-石越間で、毎週金曜日に各一本ずつ走らせている。これからシーズンであれば、石越・新田までこの列車で来て、栗原市内宿泊し、早朝の伊豆沼のマガノの飛び立ちを見るといった観光に繋げられないかと考えている。
- ・登山道は、一般に歩く人が多いが、中には走りたい人もいる。この日は走る人だけ、この日はマウンテンバイクを乗る人だけという日を作るなど、普段はできないことをやるイベントの開催が面白いのではないか。
- ・山や自然は日本中どこでも素晴らしい場所ばかりなので、栗原を選んでもらうためには、他にはないコンテンツを作るのが大事だと思う。
- ・いわかがみ平から登って須川に抜ける登山客向けに、いわかがみ平で登山客を下ろし、須川に迎えに行くような観光ツアーがあると良いと思う。
- ・年間150万人の観光客が来る平泉は、くりこま高原駅などにも近い。平泉との連携を深め、平泉の観光客を栗原に呼び込む施策を考えてほしい。

#### (2) 施策2 周遊性向上のための二次交通対策

- ・十年以上、同じ話が繰り返されているので、二次交通解消は無理だと思う。行政の財源的な体力勝負になる。持続性がない。旅行者が自ら移動するジオトレイルやサイクリングなどの取組に対して、何らかの施策を講じるべき。
- ・くりこま高原駅で下車しタクシーを利用したくても、夕方以降はタクシーがいないことが多い。お客様が必要としたときに手配できる仕組み、ライドシェアなどが実現できると良い。
- ・二次交通対策として、観光客が自分の好きな車や自転車で、自分で移動するのも良いのではないか。昭和の車やクラシックカーなどの魅力的な車をレンタカー店に置いてもらえれば、魅力的な車に乗りに来たいと思ってもらえるのではないか。
- ・新幹線に自転車が乗せられるようにするなど、サイクリスト向けのツアーや、自分の好きな自転車で栗原を巡ってもらうことができると良いのではないか。
- ・ジャンボタクシーの利用に対する補助があると良い。また、今後、自動運転が普及していくと思うので、レンタカーカー会社が導入していくための補助があると良い。
- ・市町村が主導する自治体型のライドシェアも始まっているので、上手く活用すると観光にとってプラスになるのではないか。

- ・観光は食が占める割合が大きい。飲食業者からすると、夜間の運転代行やタクシーがあまり稼働していないのが課題。登録制でタクシー業以外の一般の人が送迎できる仕組みがあると良いのでは。
- ・夜間にタクシーがない時にそれを補える方法が実現できれば、夜の飲食店の売り上げも上がり、地域経済が回ると思う。